

- 電気自動車(EV)・マルチメディア機器・家庭用電気機器等を簡便に充電する手段であるワイヤレス電力伝送システム(WPT)について、近年、実用化や国際標準化に向けた取組が活発化。
- CISPRにおいては、WPTから発せられる漏えい電波が既存の無線設備に妨害を与えることのないよう、B小委員会（電気自動車用WPT等）、F小委員会（家庭用電気機器用の誘導式電力伝送機器（IPT））及びI小委員会（マルチメディア用WPT）において、それぞれ検討が行われている。
- 我が国は、検討のために設立されたアドホックグループにおいてリーダーを務めるなど、審議を主導。

F小委員会：家庭用電気機器・照明機器等の妨害波に関する規格を策定

1) 審議状況

- 現行規格の適用対象である電磁誘導加熱式（IH）調理器の定義を、家庭用電気機器用の誘導式電力伝送機器（IPT）にまで拡大し、その許容値及び測定法の検討が行われている。
- 昨年CISPR杭州会議において、当面の間は、既存のIH調理器の許容値をIPTにも適用することとなった。今後、CISPR14-1第6.1版に関する全体審議の中で、引き続き議論が行われる予定。

2) 対処方針

- これまでに行ってきた審議では、我が国より提出した多くの意見が採用されているため、回付された委員会原案（CD）文書の内容を支持する方針とする。

各小委員会における審議状況と対処方針（F小委員会）

F小委員会：家庭用電気機器・照明機器等の妨害波に関する規格を策定

1 CISPR14-1「電磁両立性—家庭用電気機器、電動工具及び類似機器に対する要求事項—第1部エミッション」の改定

1) 審議状況

クリック(瞬間的な雑音)の測定等が議論されている。クリックの測定法は、4つの周波数帯におけるクリック数を測定するものであるが、従来の測定器は1周波数ごとに測定するものであるのに対して、近年、4周波数同時測定が可能な測定器が現れたため、それぞれに対応した測定法を適用することが提案されている。

2) 対処方針

それぞれの測定器でより短時間で測定を完了できる提案であり、原則として支持する方針で対処する。

2 CISPR14-2「電磁両立性—家庭用電気機器、電動工具及び類似機器に対する要求事項—第2部イミュニティ」の改定

1) 審議状況

これまで規定されていなかった有線ネットワークポート（電話線やLAN）の取扱いが議論されており、従来から規定されている信号・制御ポートと同様の扱いとすることが提案されている。また、無線ネットワークポートの検討に際して、無線通信機能は本規格の対象外であることが明記された。

2) 対処方針

有線ネットワークポートを有する新たな機器に対応する提案であり、提案を支持する方針で対処する。

3 CISPR15「電気照明及び類似機器の無線妨害波特性の許容値及び測定法」の改定

1) 審議状況

照明器具の小型化・高機能化に伴い、放射妨害波測定の周波数範囲を1GHzまで拡張すること、また近年のIoT化に伴い、ネットワークへの接続のための有線ネットワークポートを有するものが現れてきたため、このポートにおける妨害波を評価するための許容値及び測定法の検討が行われている。

2) 対処方針

照明器具の小型化等・ネットワーク制御方式の出現を踏まえると、周波数範囲の拡大及びポートの区分は必要であり、賛成の立場で対処する。